

日本でのトキ保護の歴史

- 大正15(1926) 「新潟県天産誌」に「トキ濫獲のため其の跡を絶てり」と記載
- 昭和 4(1929) 能登でトキ1羽誤殺
- 昭和 6(1931) 佐渡で2羽のトキを確認
- 昭和 9(1934) 天然記念物に指定
- 昭和27(1952) 特別天然記念物に指定
- 昭和28(1953) 佐渡朱鷺愛護会設立
- 昭和29(1954) 新潟県が佐渡禁猟区設定
- 昭和34(1959) 新穂村、両津市で給餌を開始
新穂トキ愛護会設立
- 昭和35(1960) 国際保護鳥に選定
- 昭和40(1965) 国が営巣地を国有林として買い上げ
トキを「新潟県の鳥」に指定
- 昭和42(1967) 営巣地に近い新穂村の山中(清水平)にトキ保護センター開設
- 昭和43(1968) 宇治金太郎氏、佐渡真野町で「キン」を捕獲、センターで飼育開始
- 昭和46(1971) 両津市トキを愛護する会発足
- 昭和50(1975) 文化庁から環境庁へ事業移管
- 昭和53(1978) 野生つがいの巣から卵3個を採取、上野動物園で人工孵化を試みるが、無精卵と判明
- 昭和56(1981) 佐渡に残っていた野生のトキ全5羽を一斉捕獲し、センターで飼育(飼育羽数は、キンを含め全部で6羽)、以後ペアリングを試みるも成功せず
- 昭和60(1985) 中国からホアホア(雄)を借用
- 平成 2(1990) 日本産のミドリ(雄)を北京動物園に移送
- 平成 5(1993) 種の保存法による国内希少野生動植物種に指定
- 平成 6(1994) 中国からロンロン(雄)とフォンフォン(雌)借入
- 平成11(1999) 中国が1つがいのトキ、友友(ヨウヨウ、雄)と洋洋(ヤンヤン、雌)を寄贈
人工孵化による日本で初めてのヒナ優優(ユウユウ)誕生
- 平成12(2000) 中国が美美(メイメイ、雌)を供与
ヒナ新新(シンシン、雄)と愛愛(アイアイ、雌)が育つ
以後、毎年順調に繁殖が進み、総飼育数が急速に増加
- 平成15(2003) 10月10日、日本産最後のトキ「キン」死亡(36才)
- 平成16(2004) 初めて1羽の自然繁殖に成功、以後、毎年自然繁殖に成功
- 平成19(2007) 7月10日、野生復帰ステーション順化ケージにトキ5羽を放鳥し、順化訓練を開始
11月19日、中国からホアヤン(華陽)とイーシュイ(溢水)供与
- 平成20(2008) 9月25日、順化訓練を受けた10羽を27年ぶりに佐渡の空へ放鳥
- 平成21(2009) 9月の第2回放鳥で19羽を放鳥
- 平成22(2010) 6つがいが野生下で営巣し、31年ぶりの野生下での産卵を確認するも孵化はせず
11月の第3回放鳥で13羽を放鳥
- 平成23(2011) 7つがいが野生下で営巣し、産卵を確認するも孵化はせず
3月の第4回放鳥で18羽、9月の第5回放鳥で18羽を放鳥、累計放鳥数78羽
- 平成24(2012) 自然界で36年ぶりにヒナが誕生し、38年ぶりに巣立つ(3組のペアからヒナ8羽)
6月の第6回放鳥で13羽、9月の第7回放鳥で17羽を放鳥、累計放鳥数108羽



▲[野生のトキ]
両津市片野尾にて昭和52年(1977)撮影



▲[旧トキ保護センター]
新穂村清水平。昭和59年(1984)撮影



▲[初放鳥]
10羽のトキを放鳥(平成20年9月)

